

各区のふるさと会紹介

東京浦川原会

東京浦川原会 会長

小菅俊信

東京浦川原会 広報委員

鈴木玲司

東京浦川原会はふるさととの
架け橋として頑張っています

【役員】

会長 小菅俊信

副会長 石田文夫（会長代行）

鈴木玲司（広報）

大島勇（財務）

杉田十四子（総務）

武田敏夫（総務）

幹事長 石田春夫

会計監査 岩野俊章 福田美和子

企画幹事 横田勝之 中川輝子

広報幹事 養和東栄 山崎 功

総務幹事 塚本豊昭 横田 実

【設立年月日】

（山登り・ハイキング／四月）

（ふるさと訪問旅行 六月～十月頃）

（柴又交流フェスタ参加）

（ゴルフコンベン二回）

東京新潟県人会主催 新年会

納涼大会・旅行等に参加

（ハ）会報誌「銀杏」発行（年二回）

二〇〇〇部発行

会員名簿の発行

（ニ）年会費 二,〇〇〇円

【会員数】

三五〇名

【事務局】

〒二六四・〇〇〇五

【事業計画】

（事業年度一月一日～十二月三十一日）

（イ）総会（定時総会・懇親会毎年三月開

催）

「地元浦川原より各地区の関係者多数出

席」

「保倉川太鼓協賛」

（ロ）懇親・交流会

（歴史文学散歩／五月）



東京浦川原会第5回ハイキング会 高尾山口にて

千葉市若葉区千城台北二・四・二
会長 小菅俊信

〇四三・二三七・五六二五



保倉川太鼓保全会のみなさん

第三回 ふる里訪問ツアー

平成十七年六月五・六の両日梅雨入り
宣言前の快晴の日に二十二名の会員達に
よるふる里浦川原訪問ツアーを敢行。一
行は午前十一時にほくほく線浦川原駅前
に終結した、どこの集落も緑一色の田園
風景である。
地元総合事務所のチャーターによるマ

イクロバスに便乗、まず出川の杉を拝観、樹齢千二百年も経過していると聞き驚嘆させられた。

根本に近い部分の幹は空洞になっているらしく外からふさいで腐食を防止してある。まさに史跡にふさわしい御神木である。

バスは「ゆあみ」へ向かう今で言うレジャー施設、昼食で一時間休憩、そこは山に囲まれた谷間の一角だが十数年前の故人竹下登元首相の日本全県に元氣をもたすためのふる里創生策による恩恵の一部支援で建てられたもので誰でも気軽に立ち寄れる食事兼入浴可能な施設である。多くの人々の利用があると聞いている、バスは浦川原物産品へ立ち寄り物産品を見て廻り、宿泊先の「月影の郷」へ、ここは閉校になった小学校を改装して宿泊施設にした建物で宿泊体験交流施設として六月から正式に営業を開始、入浴もでき五十名まで入れる簡易宿泊施設で有効利用できます。

休息後軽装に着替え地元主婦らの指導を見ながらふる里自慢のチマキ作り挑戦、不慣れな手つきで二時間近くかけて食体験を楽しんだ、夕刻六時から懇親会（山菜料理）を開き地元関係者も交えなごやかに談笑に花を咲かせた地元歓迎では保倉川太鼓連も出演してくださった。

翌日は、株ファーストファームというファミリー牧場を視察、放された羊やヤギを見て廻り乳搾りも体験出来る広大な牧草地帯で、将来多数の家畜を飼育出来る場所である。設立当初は大変ご苦労があるでしょうが、自主・自立独創性のある体験を生かして発展を期待したい。

さらに一行は、浦川原総合事務所を表敬訪問後、旧跡顕聖寺を参拝する、この建物は築五百年もする古寺である。

バスは物産出所店などを廻り当地自慢の山本ブドウ園をバスの窓から眺望、広大さに目を見張った。

「月影の郷」へ再び戻り、昼食を摂る、午後二時二日間の旅を終え浦川原駅で自由解散となった。「月影の郷」の管理委員の皆さん、そして総合事務所の総務の方々に大変お世話になりました。これからの新しい交流活動にそしてNPOあふれる浦川原の生涯学習にもエールを送りたい。

また、上越市のニュースを聞かせて欲しいと想っております。



チマキ作り体験



月影の郷にて